

2023年5月吉日

塾員各位

慶應義塾長
伊藤公平

ふるさと納税による慶應義塾支援のお願い

慶應義塾の教育環境整備に必要な資金は、塾生から集める学納金では不十分です。これは今に始まったことではなく、塾員の皆様が塾生として学ばれた当時の学習環境の整備も、皆様が支払われた学納金では不十分で、企業や塾員・篤志家による支援によって支えられていました。今、慶應義塾が世界の一流校として発展するためにはどれほどの資金を必要とするかは後述のとおりですが、特に塾生の学費の値上げを抑制するという観点から、慶應義塾の伝統である、社中一丸となって塾生を支える金銭的な応援をお願いしたく、皆様がいずれにせよ支払われる税金の一部を、毎年、港区のふるさと納税に振り分けていただけますようお願い致します。本制度では、皆様が港区へ移行してくださる納税額の「7割」の額が慶應義塾に振り込まれるという、慶應義塾に極めて有難い制度です。港区民の方々も申し込みいただけます。

港区版ふるさと納税制度を用いた慶應義塾の支援とは

港区版ふるさと納税、団体応援寄付金制度をとおして支援いただけますと、その額の70%が慶應義塾に振り込まれます。ふるさと納税は、実質的に皆様がご自分の税金の納め先を選べる制度であります。この納め先を自由に選べる金額の上限、いわゆる、控除の対象となるふるさと納税額の上限は、皆様のその年の給与(所得)収入と家族構成によって決まります。(「ふるさと納税 上限」で検索いただけますと、おおよその上限が簡単に見積れるウェブサイトが見つかります。)そして、その上限の金額以下であれば、本来はご自分の所得税や住民税として納めるべき額を、そっくりそのまま、港区ふるさと納税にまわすことができ、慶應義塾をご支援いただけるのです。正確には2000円を手数料的な位置付けでご負担いただきますが、その残りの金額すべてが、所得税や住民税から差し引かれ、7割が慶應義塾に渡るのです。本制度は港区にお住まいの港区民の方々もご利用できます。お申し込みは、「慶應 ふるさと納税」での検索で、

<https://kikin.keio.ac.jp/furusatotax/>

を見つけていただき、このウェブページの「申し込みはこちら」から簡単にできます。

税控除を受けるための手続きも簡単です。確定申告をされない方々、すなわち、給与からのふるさと納税分を天引きされないようにセットされたい方々は、その年のふるさと納税

先の自治体の数を5つ以下にすることを条件に、慶應義塾ウェブサイトでのお申し込みで、「ワンストップ特例を希望」を選んでください。港区から用紙が送付されますので、簡単な事項を記入のうえ港区に返送いただけますと、「ふるさと納税額マイナス2000円」の額が、給与から差し引かれなくなります。普段から確定申告される方や、6つ以上の自治体にふるさと納税される方は「ワンストップ特例を希望しません」を選んでいただきますと、港区から確定申告で税控除を受けるための証明書が届きます。

慶應義塾はなぜ支援を必要としているか

次項の国立大学との比較でも明らかなおとおり、学費収入のみで塾生の学びの環境を整えることは困難です。特に最近では、授業や研究におけるオンライン活用が一気に進み、メタバースといったサイバー空間・AI活用世代の教育現場を用意するにあたり、デジタル費用、クラウド費用が一気に膨れ上がっていきます。最近の電気・ガス代を筆頭とする様々な価格の高騰に加え、学校として、あらゆる人を取り残さないインクルージョン対応、バリアフリー化、防災への備えに加えて、次世代が学ぶ場であるからこそその地球温暖化対策の先端に行く設備の整備も求められています。このような支出は、これまでの義塾の支出項目の延長に位置するものではなく、近年新たに生じたものです。しかし、これらを理由として学生の学費を一気に上げることは、次項の国立大学との比較のおとおり難しい状況です。皆様の塾生時代が当時の塾員からの支援によって支えられましたように、ふるさと納税をとおした皆様からの継続的な現役塾生の支援をどうぞよろしくお願い致します。

国立大学との運営費の比較

全国には80以上の国立大学があります。国立大学の学費は年54万円ほどですが、同時に国からは大学生一人当たり平均で231万円が支給されます。すなわち、国立大学は、一人の学生について1年間で約285万円の予算で運営されています。一方、慶應義塾大学の学費の全学部の平均は年150万円です。国立の3倍ととても高水準なのですが、国からの学生あたりの補助はわずか18万円です。よって、慶應義塾大学は学部生一人あたり約168万円で運営しています。国立が285万円ですから学生一人あたり120万円ほど国立より少ないのです。さて、ここで私たちは、国立の優遇を問題にしているのではありません。逆です。世界での一流大学を目指すためには、理想的には一人の学生あたり250万円の経費が必要というのが私どもの試算で、このような観点からは、国立大学は適正な補助を受けていると言えます。では私ども私立も同じような国からの補助を受ければよいかと申しますとそうではありません。慶應義塾は私立であるからこそ、国からの独立を保ちながら、政府のカウンターパートとして国や世界の発展に貢献することを誇りにしてきました。よって、国に対してさらなる補助を懇願するのではなく、まずは慶應義塾を応援いただく「民間の力、塾員の力」に頼るとというのが慶應義塾の伝統であり、今回のお願いの趣旨でございます。

目標マイルストーン

慶應義塾には現在 40 万人ほどの卒業生、そして在校生の保証人の方々がいらっしゃいます。この度の慶應義塾ふるさと納税キャンペーンでは、2 万 5 千人の方々が「毎年」慶應義塾にふるさと納税をしてくださることを最初のマイルストーンとします。港区・慶應ふるさと納税をとおして、その年のふるさと納税上限のすべての額を港区・慶應義塾に回していただければ、これ以上の感謝はありません。ただし、皆様におかれまして、どこかの違う自治体にもふるさと納税をして、返礼品を楽しみたいと思われる方もいらっしゃるかもしれません。そのような方々におかれましては、「毎年、ふるさと納税の半分以上は慶應義塾へ」と振り分けていただけますと幸甚に存じます。もちろん、まずは応援の気持ちということで、どのような少額でも、ふるさと納税いただけますと幸いです。

なお、今回の港区版ふるさと納税制度においては、慶應義塾から皆様へ返礼品をお渡しすることは禁じられています。これからの社会を先導する塾生、社会を豊かにする慶應義塾の研究成果、患者の最後の砦として命を守る医療が慶應義塾からのお礼だとお考えいただけますと幸いです。

最後に

皆様におかれましては、まずは、港区ふるさと納税をとおして、毎年、定常的に慶應義塾を応援いただき、そのうえで、様々な形での寄付にもご協力いただけますと、慶應義塾において、これからの社会を切り拓く塾生の教育の場が整備でき、平和で豊かな社会につながる研究成果が実施・発信でき、皆様の命を守る医療の発展が得られます。まずは港区へのふるさと納税、どうぞよろしくお願い致します。

皆様からのご支援による慶應義塾の発展の様子は、ご報告も兼ねて積極的に公開していきますことをお約束いたします。どうぞよろしくお願い致します。

以上

2023年5月吉日

連合三田会会員各位

慶應連合三田会会長
菅沼安嬉子

拝啓

桜も終わり新緑の季節になって参りました。コロナの制約も取れ、皆様におかれましては
お忙しくお過ごしのことと拝察申し上げます。

さて慶應義塾伊藤公平塾長は、世界の大学に負けない超一流の教育レベルにしたいと考
えました。伊藤塾長の説明のように、そのような教育レベルにもっていくにはかなりのお金
がかかります。今までのように大教室で300人くらいの学生に一人の教員が黒板にチョ
ークで書く時代ではなくなりました。IT 機器をはじめ、グローバル教育のためには海外か
ら優秀な教員を招く必要もあります。これは一貫校にも当てはまります。

福澤先生の時代に先生の教えを受けようと日本全国から人が集まったように、人々が慶
應義塾を目指すために、是非皆様のふるさと納税によるご支援をお願いします。そして地方
に在住の塾員におかれましてもぜひご子弟を慶應義塾にチャレンジさせてください。この
試みが成功すれば、素晴らしい教育が受けられるはずです。

今は慶應義塾が世界の教育に乗り遅れるか、波に乗れるかの瀬戸際でもあります。ある意
味危機とも言えます。どうぞ皆様の温かいお気持ちでふるさと納税を港区に、そして慶應義
塾によりしくお願い申し上げます。

最後になりましたが皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

敬具